すが清

面を渡る

日発行 亍 所 発像 行

沖 0 島

> 3 ま

大

島

宗 像 大 社 湖岡県宗像郡玄海町 電話 神義 2 6 番 定価 一年 送料共500円

し、沖津宮の御神霊をお迎えする

九月二十一日、秋季大祭に際 なまれる。敬虔な祈りの中に祭典

は終了した。船上での直会は神と

待たれる海上渡御祭

0 み P い から だ

遠

像 0 ŋ 秋 ŧ 0 培 MC 豊 0 野 b 流 か K 0 れ な 0 太

第何時でも出動できるように待機

幣が海路を切り開いて行く。大島一神慮と云う他はない。

結婚式シーズンを迎えて

お申込みは早日に!

して沖之島を発つ、船首の浪切御

はこの一日だけであった。凪に御

あとから思えば、海の凪いだ日

午前十時 辺津宮出御祭

正午、御座船は白い航跡を後に

台風シーズンの中でも、一、二

た頃から奉仕員は、連絡のあり次 ふさわしく、天候の調子によっ

毎年、この祭りは海洋の祭典に

びとが大きく融和して明るく楽し 共に在る歓びと、祭りを完えた喜

る、と同時に沛然と雨が降って来

く、入御され、殿内に奉安され 津宮まで列をつくっている。

午后四時、神璽は中津宮に恙がな

いものとなった。

宗



るがえる。大きいうわりが船を乗 る船上では、幟立てが行なわれる る六時二〇分、水平線に太陽が昇 ストに結索され、朝風に大きくひ 暗い大島湾を出航し、一路北上す し」と言うことになる。 敏感にキャッチして「明日ならよ 年のカンと経験で奉賛会の人等が 日は海の凪ぐ日がある。それを永 「国家鎮護宗像大社」の大幟がマ 当日は、午前六時、解纜未だ薄

警戒中という。船内は一瞬、緊迫 はぎ」「くろかみ」を出動させ、 中の為、七管本部は、巡視船「や スが流れる、韓国艦二隻が沖之島|年前から申込みをされた組もあっ した空気に包まれる。「国家鎮護 午前九時三〇分、沖之島到着、 の大幟が再びはためき始める。 この時「平新艇事件」のニュー 一である。特に大安吉日、日曜、祭 うれしいひめいをあげている次第 て、職員も応対におおわらわで、 日の申込みが多く十月、十一月の にされず、秋のシーズンには半

直ちに海水襖を行い、遷霊祭が営一式場を造る計画がある。又、従来

特に青年に対し、これを人生向上の指標とすべ 身につけることは、実に容易ではない。翁はこ れを実践する教育者でもあった。さればこそ、 る一句も、吾人の日常生活に血とし、肉として 然し、列挙された生活を倫理化する指標とな

で、人間尊重こそ、これであると説いているの く、生涯これを貫くことを示唆しているので、 尊い人生は、人の為に奉仕する、すべての物に 遂に他人を羨み、果ては嫉視して、無為の徒に 堕するを、次々に戒めている。次には美しく、 そのために必要な教養を積み、中途挫折して、 向に自己を打ち込んで、 左顧右 眄することな **| 馊情を持つ、これが自他を幸福にする生き方**

(1)

有名な言葉「天は人の上に人を作らず、人の下

です。

に人を作らず」を思いみる。そして翁の遺した した頃、最も強く取り上げられた福沢諭吉翁の

これは決して難解な教訓ではない。特に限ら

「石に算盤、左に論語」は、現在唯物史観に

一、世の中で、一番悲しい事はうそをつく事

と、この島に生きる孤独の自我に全く必要ない

社会生活。そこには貧富、賢愚、愛憎、和戦な 関係の絵模様を織りなしてゆく。それが面倒な 多数の人間が昼夜断絶することなく、所謂対人 に跪坐して冥想に耽る。渺茫幾十里の彼方に、

ものが、あまりにも多く存在する。

一、世の中で一番美しい事はすべての物に愛

戦後民主々義の思潮が、漸く国民生活に参秀

昭和41年10月1日

性と隔絶して知る、孤独の自我との対座があ

一、世の中で、一番みじめな事は人間として 一、世の中で一番楽しく、立派な事は、一生

を貫く、仕事を持つと云う事です。

教養のない事です。

、世の中で一番さびしい事はする仕事のな

連日、黙然と携行の書物を読み、或は、巌頭

土曜日

声もなく、電話文書等の通信とも、

絕緣十餘

いづれも自我の対象である。

心訓を熟考に及ぶ。教える者、教えられる者、

玄洋の孤島、沖ノ島の一角に起居、来訪者の 視界に入るものは波と雲ばかり。だが、こ

福

沢

諭

吉

翁

の

心 訓

が、平易に脱かれているのである。まさに、金 言ではなくて、何人にも通ずる生活の倫理化 れた知識人とか、指導者とかを、対象とした訓

「少年よ、大志をいだけ」は、一旦決めた方

一、世の中で一番みにくい事は、他人の生活

をうらやむ事です。

、世の中で一番尊い事は、人の為に奉仕

し、決して恩にきせない事です。

代に入ったものの、社会のあらゆる面に円習の は、前述の心訓に掲げるところである。 革修正の根本義を、愛情と奉仕においたこと 残滓が見られ、特に維新の功臣を中心とする滞 建の世相は一変して、四民平等の文明開化の時 期をよく観察している。長い幕府政権による封 この頃、お隣の中共が、整風と称する旋風を

ら、右に算盤と同時に、左に技術を置きかえる 根ざす物質分配論のみを金科玉条とする思想な

来まい。所謂、科学的知識では果せない人間性 だろうが、これで果して人間尊重、自他を幸福 に論語でなければならない 生活にはともに必要で、やはり、右に算盤、左 の技術だけで、人間の心の組立てや、修正も出 科学的知能の訓練にはならないと言う。勿論、 の問題がある。論語は論語、技術は技術、人間 技術にも直接には役立つまい。然し、機械操作 孔孟の道を学んでも、電気の知識にも、機械の にする道は開かれるものか。論語を学んでも、

翁は、明治維新の大変動期、続く明治の建設

ゆくくは披露宴場も兼ねた一大 前半は早くも満員の状態である。 当社では多数の若人のために、

する。出迎えの人が桟橋より、中 は、はるかに選拝をする。 長く、大島湾頭にひびかせて入港 てくる。御座船旗をみつけた人々 に近ずくに従い、漁船の数が増えれている。 三時三〇分、御座船は、気笛を おりますので御気軽に御利用下さ せつ、ていねいに説明を致して 宗像大社儀式課 「結婚式の御相談には係がこん

九月三十日 秋季大祭祭典次第

午前十一時 みなと祭(於神湊) 午前八時三十分 午后六時 十月 一日

午前十時 第二日祭 翁舞 秋季大祭 風俗舞、浦安舞 十時 中学生相撲大会 日日

午前十一時三十分 午前十時 第三日祭 三日 風俗舞 浦安舞

て、立派な新家庭がきずかれてい

る。現代の若人達は、丙午など気 組の幸わせなカップルが誕生し 々挙式数も増加し、昨年は約二百 数の予約申込が殺到している。年

十六日 表千家家元、洞門会 十五日 午前十時 德山宗像神社祭 月次祭

二十八日 両宮秋季大祭

苛酷な運動に、鋭い非難を浴びせるかもしれな 国論統一方策に、妖怪粛清なる修正主義追放の 険性を残さぬものだ。時の覇者毛沢東神格化の て 独定強奪者を招く。具体的問題は多数が協調し 振う者は剣に斃れ、独裁権力に酔つ者は、次の 後世まで押しつけることは不可能だった。剣を一激しいもの「勝つことも難しい 皇帝も、自己の政治原理を永遠の真理として、 に文化大革命と銘打って、青少 年を蹶起せし うか。 か。焚書坑儒で、史上に悪名を留めている秦始 めて伝えられるが如き無謀が何の為に必要なの 武力革命が一応成立を遂げて、十数年後、更一珍しく素直な人生観を持った大学 ある過程を経て、抽象化されてゆけば、危

えられる。江戸時代の童子訓女大学に似た具体 が、思想家教育者としても、大いなる事蹟が称 的教導が、吾人の心になじみ易く、理解し易い ともあれ、翁は経済人であり、政治家であるらを渡る風は時に詩情を動かし、

神である。

白 雲 電話(神湊)二十六番

午前九時三十分 宵祭一夜御駐輦 大島御発輦 中津宮出御祭

午前十二時 辺津宮入御 午前十一時三十分 神湊御発輦 午前十一時 神溪御駐輦 (海上神幸)

|の挙式料を「松」「竹」「梅」の

はいずこもシーズンに突入。

当大社においても例年になく多 みのり深き秋となり、結婚式場

は、表札を贈呈している。新家庭

の記念品にはこれが一番と喜こば 三段階に分けて、記念品として

宗像護国神社祭

吉

田占部

由久

二十七日沖津宮、中津宮宵祭

少 言 天怒り地荒れ人狂ふ世の中を鎮め

して、今日に在らしめたら、何と評するであろ
うなインテリだったが、戦斗苛烈 捲き起して、世界の耳目を惹いているが、翁を あれ、母校の名誉を賭ける斗志は 学は戦斗の役に立たず、駄馬の取 手が自殺。柔剣道であれ、野球で 〇甲子園 出場の夢 破れた野 球選 教授になっているか。健在なれ。 ります。」と故郷への便り。弱そ ないように、日夜馬に親しんで居 が、血の循りはよかった。「英文 の中に黙々よく任務を遂行した。 扱いに馴れて、戦友の迷惑になら 兵士、英文学専攻と言っていた 〇戦場で別れた大学勤めの若い 循りの悪い精神的不具が少くない 人の循環器治療に権利思想は介入 なしと、車庫建設を強行した。病 その上部地区の住民は特に非常の 空地を持っているのに、坂道の狭 循環器専門とか。この先生、広い 学の教授が家を建てた。医学部の 似た数さんの自己弁護だ。暁の爽 の指摘。「医者の不養生、お前に 早めると、医者が書いていますヨ 朝はゆっくり寝ないと老化現象を すまいが、大学の先生など、血の 駄目。車の循環障害は、当方痛痒 際消防車、救急車の通行困難を愛 い曲り角に車庫を造りはじめて、 せば、首をひねる〇近所に某大 快さは老化現象の予防薬だ」と返 えて、対策協議。その一角を町内 で買いたいと有志が交渉したが、 と朝寝坊を特技と心得る高校侍 「お父さん、早起は三文の損、

宮
る
皆
が
ら
す
が
し
さ
に
満
つ 木の間もる日ざしも秋の色見せて 第六五回

が、負ける修練は尚難しい。共に りつゝがなき此の八月六日 人形のたんざく切りて祈りこめ神 田の面につばめむれ来て 灼熱にたへて撒布す殺虫剤終れば 寄附を惜しみなくする 自らを出世の組に入れし夫母校の をたしなみ酒の害をとく 胃を切りて二十年経し医師吾の酒 ち足りし頬の色染りゆく 酌み交すピール溢れて父と子の満 て朝の風は秋めく 口ぐせに暑しと言ひし八月も終り 切りし紙を子は鳰のごと舞わすな て入日美わし 父母健に晴れし心や故郷の海夕凪 田の稲も手を合わせいる 雨乞いの声聞く今日の暑さかな広 ぎりて消えし白蝶一ツ 雷鳴のしきりなる夕視野不意によ かそけし蝉しぐれの中 日田杉の繁れる真下玖珠川の流れ

東 郷 藤崎 辰子

校侍に説き聞かせる一言。同時に しい歌の神である。ゆかしい愛の あれ、常に己が心の大敵と対決せ 時に愛情を思わせる。秋風はやさ ねばならぬ。人生の大事は終始己 己との戦いで、外形の勝敗はどう 己を鞭うつ。〇寒原の秋、野づ に勝つことだ。」と剣道選手の高 とうろやすらく夕け楽しも 西瓜の出荷やうやく終り老の身も のよき石拾う(淡路島観光) 五色浜十五分間バス下りて色と光 まの独りるまた楽しかも つれづれに奥の細道ひもとけばた おめづらしい」とおどくる日あり 入院の長き徒然日毎に訪ふ夫に一 の御前の笹に結ぶ夜(七夕祭) 福 岡 江崎 琴子 遠 賀 長畑 房江

滅びゆく峠にのこるつるばみを庭 幸生 濃きまゝに夏も過ぎゆく 唯一つ咲き残りたるヒヒスカス色 福間 大井吉田 大井吉田

宗像大社 九月十一日 献詠歌会詠草

於社務所詠草到着順

昇翁 境内に影を落して古木立仲秋月の なき日々の暑さよ 新建築農機具音のたくましく静心 熊

高橋

若竹の重ねて青き枝ゆれて谷の川 果しなき空 風肌に凉しき 村山田 勝 浦 永島 文子

東 郷 有吉

訪日の手続き了えてはろかなる生 鉢に移しあやぶみるしも七彩の胡 家思へば母すでに亡し 椒つれゆく日々面白き コロラド 浦野 薫

福

間森

宫

に暫し輝やく 教会の光塔高く十字架の夕陽の中 秋空高くみどりうすれぬ 吉 飯 塚 萩本 夕照 留 白木うめの

大 島 養父 峯子

大 井 木原ふさ子

たくましきまでに眺めし山の端は

和布刈 永島 まち

ば心にとむる事もなしえず すでにして五十となりぬ経て見れ Ш 口 篠田 俊樹

朝顔を棚にし己が部屋を守る祖母 宮 田 片山

前の招霊の花 現身に神の伝説聞きてをり岩戸の はいつまでも居ませとぞ思う

夏休み終りに近し学童の皆一様に 日焼けせる顔 勝浦永島

朝な朝な無花果畑に降り立ちて秋 の近きを噛みしむるわれ 武丸立石 昇

宮

田 北原 君子

大島 越智 治子

戸

畑 田中ハツセ

戸

畑田中桂一

来年の夏を約して帰りゆく日やけ せし顔の孫見送りぬ 大 井 安部 重郎 武 丸 立石ろせの

に天地のうつりかはる心地す 秋立つやそこはかとなくさわやか めぐり秋は今日立ちにけり いにしえの賢しき人の定めたる季 大 井 安部 静子 杏子

本

蘭盆

に母の

想いは

遥かなる

異国 波の面に跳ねたる魚の一瞬の陽に 新海 和子 三三十

秋季大祭

も慣例によって休業することにな 祭典行事であるため各学校官公衙 ある。勿論郡内にとっては最大の一相撲大会が催される。

十月のまつり

をつくして、神助を頼む所以がこ

〇同七年五月十四

就祈祷。 国主より五製成

日、郡中祈雨祭

米作は天候に左右される。人事

こにある。

ので、神助を頼む農民の気持は真 いる。特に台風シーズンでもある 農民の希いは此の一点にかかって りも懸念されるのが風雨である。

〇同四年五月二日

日、見名。

〇宝暦三年七月廿

り治風祈祷。 十九日、国主よ 製成就祈祷。

〇寛延二年七月四日、国主より治 る。主なものをしるすと、

〇同年三月二日、 〇天保二年二月

土一日、名。

風祈祷。

〇同三年正月四日 国主より五穀 〇同年七月十七日郡中治風祈祷。

日、国主より国

事等が報告された。

秋季 大祭 第二日目の流鏑馬行

晴祈祷。 国主より天気快 宗

のことである。

〇明和元年七月二

今、稲の出穂期に当って、何よ

進み、平年作の見通しがついたと ち直したので、稲の成育も順調に ぎみであった。その後、天候が持 の間日照りが永く続いた為、旱魃 のまつり)がとり行なわれた。

け頃の苗の育ちは良かったが。夏

〇同五年正月一

祷。 日、国主治風祈

日、国主より五

今年の夏は、梅雨が順調で植付

〇同年七月二十

○嘉永七年三月八日、郡中五穀成

病退除祈祷。

像

引き続いて、田島の氏子参列のも | 〇同年七月八日、国主の治風祈祷 | 〇同年八月六日、郡中五穀豊穣悪

一日、午前十時、月次祭に |○寛政元年五月朔日郡中祈雨祭。

民安穏、五穀成就祈祷。

晴祈祷。

(祭行なわれる

とに、恒例の風貌祭(かぜしずめ)〇大明元年六月十九日、郡中祈雨

景ではない。子供達も箸をおく 詞をそのまゝつけて誤らぬ風体。

ける。製材屑を一定の寸法に切っ は、いつの世もこんなものだ。宮

た廃材が山と積まれた中、竹の輪

家だんらんなどというお上品な風

何から何まで見ぬまゝ、ポロの冠

スルメの足を嘲っての夕食、一れ将校の姿は、ポロ服、ポロ靴、

総動員で夜の労働。 に詰めて、商品化する作業に一家夫、俺たちはこの山奥できこり。 奥耶馬溪の清流に、竹の柱に茅品の薪炭を町に運ぶ。まるでふく

不思議はない。夜陰に乗じて統制 様が漬物屋、連隊長が肥汲み人

談宗 話 室像

5 <

ろう

の

女 房

Ry

が断崖にかゝっている。 はじめた貧弱な木材会社のボロ家 さない。夜更けて作業終了。 運転 が復員軍人や、引揚者らを集めて ロくしている三歳坊主に目を離 さに落人で、戦争に敗れた敗残兵を詰めながら、手伝うつもりでウ の雅趣も感じられるが、落人はま の屋根と言えば、詩的な落人生活ろうだ。」 ここで、女房子供を脅励しながこれが明日の従業員の給料の一部 手を呼んで、トラックに積み込む ふくろうの女房が、せっせと薪

ら薪作りの、元貧乏神主、元端くになると思えば、是が非でも夜明

滅した頃、ふくろうも三度目の召て、米兵の来寇を迎えた。軍隊幹 えて侵入、防衛部隊は相次いで全 一枚づゝ、両方のポケットに秘し なった。 もとを見たソ連、北鮮の国境を越ふくろうは、安全カミソリの刃を

何が何でも勝たねばならぬ」と。

子供の殺し方を研究しておけ。」

不可侵条約を一方的に破棄して

て帰らねばならぬ。ふくろうは、 「何が何でも生きねばならぬ、

けまでに町に着き、代金を受取っ 集をうけて北鮮に向うことになっ

部や、官憲の自宅から、牛肉の塩 の小役人は賄賂を要求する。 陽物 が身に泌みて、勲章のかわりに頂

いて閣の筝に向って一言。

た。近所で婦人連の竹槍訓練がい

真似をするより、最期を潔よく、

「みな副張れ、戦争に敗けた者 を降ってゆく。手巻きの煙草を吹 「女だてらに児戯にひとしい竹槍 を澄いだふくろう一家には想像も ぼり上げる。立木の伐切運搬の労 一つ健在なのは、カンシェク王。 トラックに乗込んで、険しい山路よく間になる。女房に遺言するとく、かぼちゃの茎を食って飢

を敵兵に向ける。そんな馬鹿げたつかぬ贅沢な食糧が続々発見され

た。戦況激化の頃「必敗の信念でで契約の変更を迫る。多数の荒く 戦いまし 知人の実 拶をした と嫌な挨 よう。 務者には入墨者も居る。作業途中

わが国の敗色漸く濃厚となった足 女房、子供を先に郷里にかえした ぬと、カミソリの刃を溝に投じて 紙一重で終戦の号令、罪のない みると、何が何でも生きねばなら ったのに。」と独語。 業家の言葉の意味がよくわかって

かわりに古紙を貼った障子、夜風の、しわの深まった顔が笑う。

決意変換。遂に山奥のふくろうに 統制品の輸送証明発行に、県庁 おかげで、敗残の身がまだ生きて いるのだ、とも思い返す。硝子の

務署のチンピラ調査員はひどくしす。ないくづくめの中に、ただ 拝んで「侠客になっておけばよか 侍に成長して、 日当が出ないと決 去った後、月影に浮ぶ鎮守の森をの敗戦記念の坊主は、逞しい高校 ない社会。悪罵を浴せて入墨者の 庭の草花をいじるのが仕事。三歳 でも云う肩書以外は、全く通用しうの女房も今は薪作りをやめて、 れ男を相手に巌頭に起って無手勝は山を降って猛禽類から、生れ、 流の対決。清水の次郎長の身内と歳のやさしい羊に還った。ふくろ 金も知慧も、度胸もない、その イラシイ猛腐に変った。 して庭の手入れは手伝わないコワ 「羊は羊でも、角の生えた羊で

すから。」と、元ふくろうの女房

尾城は陥落する筈であった。何故た後、陶を頼む者、陶を味方とす 一行なわれていなかったならば、宮 は既に無い。陶の権勢が抹殺され

なら、陶は十月一日を期して宮尾る者、陶に反目する者、これらが

まり、午後の三時には終っていた

中国と九州の勢力関係がここで

厳島合戦

(24)

子晴久をも亡ぼし、旧大内領をす 近々二、三年の間に彼は出雲の尼

もしも、毛利軍の攻撃がこの日に変更を余議なくされた。陶の権勢

女が参詣し、森厳なる境内も人の 例の加持法要が行なわれた。 間、宗像郡玄海町鎮国寺の秋の恒 去る八月廿七日、廿八日と二日

宗像氏水田十六町ヲ寄附ス。領内 和寺の別格本山、寺院帳に「開基 この鎮国寺は、真言宗御室派仁 亀山天皇文永二年官符宣ヲ給フ

波に色彩られた。

陰暦の十月十五日の為、本年は十一を立て、五社の本地の仏像を安置 氏子奉幣については、役員協議一六十餘寺ノ総録トシ云々」とあり 寺と言」と記し、宗像神社とは特 主宗像大宮司長氏ほどこして堂舎 僧皇鑒阿闍梨ヲシテ住 職セシメ 像大宮司長氏建立、弘長年間入唐 弘法大師、中興後嵯峨大皇勅願宗

鎮 流れ勧請終る 玉 寺

って沛然として慈雨至り、無事に 農家の願いは国民の生活に直接|二十八日当日は五百人余の善男善

以上の日付けは大抵二→三日続き が豊 作を齎らすことを祈ってや以上の日付けは大抵二→三日続き | 関係がある。今年の風鎮祭の願い、 〇慶応三年六月、国主より天気快 〇明治四年十二月、福岡藩庁より

である。神意を畏み御蔭をたのん 〇同年十一月二十六日、国主より 〇同年七月十九日、郡中治風祈祷 まない。 だ事実が、これを以て知られる。 昭和に入ってからは、同九年が

した。同年七月十三日の夜中に至 植付けが出来たことがあった。 "からつゆ"であったため、県知 事以下、県民が一斉に祈雨を祈願

秋季大祭を盛大に

-郡内氏子総会開かる

年より一時間遅くなり、十月一日 祭次第についての説明があった。 の懸案事項が審議された。 午前九時半、大島港を出港される 更された事、海上渡御の時刻が昨 が渡御される前日、田島の辺津宮 代六十名が参集、秋祭りを控えて 去る九月十二日、宗像郡内氏子総」れた。 九月三十日に行なわれるように変 味で、神湊の屯宮に於て屯宮祭が さまがお出迎えなされると云う意一り、本年の総会は終了した。この 続いて、神社側から、本年秋季大 今年は仲津宮さま、中津宮さま 先ず久保宮司の挨拶があり、引 ずみ、和やかな雰囲気の内に散会 大祭となった。 月二十七日宵宮祭、二十八日が本 後直会に移り、秋の大祭に話がは した。 の結果麦野氏が代表に決定した。 又、沖津宮、中津宮の大祭は、

米田に指定されたゆかりのある しての「翁舞」が奉納され、主基 祭典には年一回秘宝翁面を着用 今上陛下の大嘗祭の御用 くなったので、これが斎行には困 難を来たしている。各位に御協力 事については、最近農村に馬がな をお願いしたい旨、係から懇請さ

添える。特に氏子会から奉幣行事 ――風俗舞、浦安舞もいろどりを 運転が出来る自慢が事 〇十月の交通訓

七六)の昔から、約一千年の伝統(そえる。三日間とも郡内郡外の参

び、見せ物小屋等立って賑わいを

境内には数百軒の露店が立ち並

当社最大の祭事。貞元元年(九

(むなかた放生会)

を誇る有名な「むなかたまつり」

「田島放生会」というのはこれで

郡中体連主催による中学生の奉納

拝人が雲集する。 神賑行事として

が斎服姿で行なわれる。

故のもと。

所、宗像土木事務所、西日本鉄道 談開催す、宗像警察署、宗像保健 七 日 秋季大祭打合廿四者会 好日にて参拝者多し。 鎮祭、宗像権祢宜奉仕す。初秋の 福岡出光支店出張、宗像町稲元地 検事正外二名参拝。 参列地元総代全員。

四日久保宮司、宇都宮祢宜 日 福岡県 高等検察庁飯田 宮司以下全職員奉仕、 前十時より斎行、久保

宗像大社御用

和印 電話

関係者が神社側と大祭準備検討を

っており、攻撃をかければ一たま報告されていた。宗像御家人の中

に東郷の衆で長彦太郎という忍び ここ宗像にも厳島の模様は逐一 皆政策の転換を迫られた。

りもない状態であった。

た。城の堀は埋め立てられてしま

城を抜く手筈であったからであっ

一一日 玄海町田島 深田氏宅、

更にその結果として、瀬戸内の水 国の変化を手にとるように知るこ

芸備の諸豪に迎え入れられた事、

の報告によって、大宮司氏貞は中 ちはさまざまな人態に身をやつし の衆がいた。彦太郎とその下人た

陶の横暴を逆用した元就の宣伝が て、中国に潜入していた。これら

三人の男子があったこと、次に、

元就の勝因は、先ず働き盛りの

し鎮護国家の道場とす。故に鎮国 筑前国続風土記に「境内地をば領

其他、納金等について報告があ に深い関係のある寺である。 九月一日 月次祭午 社務日誌抄

綜合印刷

PIT

清がめ、

蟾詰の大箱、砂糖の袋な

資で気に入る接待をしないと、

税

載した戦線記念の胃潰瘍が痛み出 ふくろうの女房はよく堪え恐んだ 十餘年の月日は流れ、ふくろろ 十月一日、戦いは午前六時に始べて我が手中に収めてしまった。

九日宗像町赤間地鎮祭、城 戸権祢宜奉仕す。麻生相談役来社 務訊問競技会開催さる。 八 日 境内にて宗像警察署 耺 権祢宜奉仕す。 行う。宗像森林都市地鎮祭、城戸

せ会斎館に於て開催す。 開催さる。福岡海上保安本部及び 秋季大祭風俗舞、浦安舞温習打合 海運局に楠本祢宜大野権祢宜出張 地鎮祭斎藤権祢宜奉仕 一二日 氏子総代並評議委員会 と、負傷者をすべて対岸の赤崎に に滞在して戦場を掃除した。死者 その上、戦術が周倒を極めたこと 等があげられる。 軍を味方につけることが出来た事とが出来たのであった。

元就はその後、十日頃まで宮島

行、

葦津権宮司以下

下

伝

っ

こ

の時に、

その志のいちぶを

特にどうということはなかった。 天にて団体参拝者多し。 張す。太田権禰宜中津宮に奉仕すや、廻廊は洗い清め、神恩に奉謝 称宜、 斎藤· 升谷、 城戸権禰宜出 り 取って海中に捨てさせた。 社殿 座祭斎行の為、久保宮司、宇都宮」けがれた島の土は、ことことく削 一八日 久保宮司以下東京出張 一五日 月次祭午前十時より斎し、神地を汚したことをお詫びし 一三日 東京出光本社新社屋遷 送り、死者は丁重に葬った。血で た。 現わす為に能楽堂を建てゝ寄進しさきに大内の滅亡によって、一旦

敬う態度を中国地方の人々に知っ したのであった。 元就の意凶は、飽く迄も、神を 友宗麟の幕下に属する形だけを取

にもかかわらず参拝者多し。

寺に厚く葬られた。 見され、それは対岸廿日市の洞雲 陶晴賢の首級は元就の兵士に発 当の実力を貯わえていたのである

の外に敗走兵士らが海上で討死を の首級八千人とあるが、話半分と隆兼が氏貞宛に出した皆状が残っ した数をあげると、それは更に倍 しても相当の戦死者であった。こており、それがこのことをよく現 厳島神社文書には此の時の陶軍がある。かの陶の勇将弘中三河守 わしている。

きことを知って自殺した。元就は の大内晴英(義長)は最早逃れ難 好機を逃すような男ではなかった とすぐさま、山口に迫った。山口 元就は厳島合戦の始末をつける 貴札畏れ入り候、仍て去る四月 働かれし状、是れ又、
注進候 候、重ねて八月廿日、御軍忠を の時、御軍忠の状注進せしめ、 袖判を加えて、之れを進められ 十六日、高祖里城切り崩さるる し処、御頂戲の由、其の心を得



福田長庵

山下半可

作

日限等必ず申し入るべく候、別 到来に於ては進入すべし、次い す候、恐々謹言 仰使節申し候条、細筆する能わ して御馳走肝要たるべく候、猶 で近日の動き相催すべく候間、

これは陶との連繋を緊密にせら 宗像鍋寿丸殿 貴報 十一月四日 弘中参河守隆兼

薪費胆を重ねていたが、大内の仇 めるためにも、毛利に放くのが最 河津の家中も離散同様になり、臥 多分、今は家中の興論を一本に纏 と間もなく毛利と結托している。 の実力者としての位置を固めた氏 を報いた毛利に、河津が気脈を通 天文二十年の大内家滅亡によって 毛利と気脈を通じていた。さきに も有利であったのであろう。西郷 貞は、毛利元就が中国を平定する 庄に居城した河津一族もいち早く れたいとの書状である。 それはさておき、今や九州北辺

() 河津一族が衰亡しかかっている

宗使相泛及安方引氏自由

じたのも当然であったかもしれな

て貰いたいことであり、又彼自身 の遠慮は不要になった。然も、そ 司家は新主君の位置が確固となっ っていたが、陶が滅亡すると、そて粕屋郡の立花方を押えた。大宮 は陶の縁故先につながる豊後の大 陶は滅びたが、氏貞の身の上は この辺から大宮司家と、河津一族 迎えたのは宗像大宮司であった。 の関係が始まり、後にはこれが主 役関係に迄進んで行く。 間に、河津一族の者たちを暖かく

が神を敬う心を己れの心の尺度と れ迄の間に、氏貞は家中の者らの て、ここに新体制が確立された。 が怡土郡の高祖城を攻略した事実前に対して下手な手出しはしなか 陶が健在でいた頃に氏貞の手勢 友も有力な中国の陶を失って、筑 諸豪族らを沈黙させた。豊後の大 った。 世の変動は暫らくの間、九州の

働きによって、近隣に進出し、相

に、思いもよらぬ事態が発生した って十三才になっていた。この年 のであった。 弘治三年、宗像大宮司氏貞は取

させていただきます。 今月をもって氏貞は休載

もので、十五日早朝六時、出光社 らと云う社長の敬神の熱意による

帝劇が劇場設備としては世界有数

なる大理想実践の場と言えよう。

力所に「X」が入っているが、 かと思わせる蕨手に「二」の字を 素文帯にはじまり、鋸歯、櫛歯文

狭み十四回繰返している。ただ一

して、ここ東京宗像神社は、大い 現であり、筑紫の宗像総本宮に対 今までの社屋の約四倍、階下の

に下され給うた御神勅の現代的具帯と続け、内側の擬銘帯は、文字

用するとの事である。

互助」の大精神が海内にあまねき

又ここより「人間尊重」「互譲

用していることが判明する。 は、極めて質のこまかい粘土を使

鏡背の文様は、前述の鏡同様に

わたること、祖神より宗像三女神

遍く光被するところである。

ものであり、国家鎮護の御神徳の

された事は、京都御所内に鎮りま

遷

形方格四

神鏡

宗 像 神 社 を 御 奉

久保宮司以下四名の職員が上京し 神社の遷座祭を奉仕すべく、当社 会社東京本社移転に際して、宗像 去る九月十三日、 これは、社殿移転は先ず神社か 出光興産株式 でで、上部総てを仝興産本社が使 る。 劇場の上部全部が宛てられてい。す宗像神社との関係に対比される に喧伝されている新築された帝国 車場、この内、劇場は地上四階ま 建物は地上九階、地下六階に駐

は、厳かに執り行なわれた。 (旧本社の七階) 神前において遷 先す久保宮司以下二名の職員が で、興産本社にはふさわしいもの と云えよう。 のものだけに、階上施設も満点 これからは全ゆる事が充分に遂

社に渡御。新本社入口には、社員 代表者多数が正面入口に整列して 伊璽をお迎えした。 これより先、他二名の職員は新 神璽を奉持し、自動車にて新本 あった。 行出来ますとは、本社の方の弁で に程近い出光頻産本社八階に鎮座 国家鎮護の由緒深い当社が皇居

十日以上に亘り、三十度を越す猛

これは宗像警察署、宗像土木事務

所、宗像保健所、西鉄赤間営業所

若葉町在住の柴田さんで、去る八

ような話の主は、北九州市八幡区

クイズで新車が当選、この夢の | に車が貰らえるなんて、 余程運が

クイズで新車が当った!

|月の
¥週刊紙の観光百選の
クイズ | ているのですが、やはり丹念に良

それはありませんよ、好きで出し よかったんですね。秘訣ですか。

に当選 ピカピカの新車が一台柴 | く調べて駅きずに出す事です。と

その一つ、四者会談が開かれた。

今年の夏は殊の外暑く、凡そ四

四

者 会 談 開

か

る

暑続きであった。

宗 当日は、平日行き通う車で賑う東 れも少なく、御遷座には好都合で 遷座祭が斎行され、 神璽は八階大広間の神殿にお鎮り 京の中心街も、早朝と、新祭日の になった。この後、宗像神社の本 本社の清め抜いを斎行した。 「老人の日」とあってか、車の流 奏楽の音が静かに流れる内に、 七時過ぎ終了

来る。

に関しては、各方面の協賛を戴い

折から一日の事とて参拝者で賑

便

ŋ

例年の事ながら、当大社の祭典

祈念された。

て、当社に参拝され、交通安全を

柴田さんは、早速新車を運転し|柴田さんは楽しそうに話しておら

に角出さなければだめですよ。」

三日の秋季大祭(放生会)をひか

当社も愈々、十月一日、二日、

祭りがそこ、ここに見受けられて ひびき、豊作を祈り、又喜こぶ秋 月、十月に入ると遠近の鎮守の森一店等の保健衛生、臨時バス、貸切

しく幾分かしのぎよくなった。九

拝者の交通整理、道路整備、露 の代表の方にお集まりを願い、参

田さんのもとに届けられた。

九月に入ると、流石に朝夕は涼

に幟がはためき、笛、太鼓が鳴り、バスの増発等の打合せが行なわれ

あった。 この度の出光興産本社は、巻間

諸種の打合会があるが、九月七日 え、職員一同準備に懸命である。

するよう頑張っている。 策を講じ、明るい楽しい秋祭りに 御援助を載き、無事盛大に祭典が て居るが、先述の四者には格別の

斎行されて居る。本年も万全の対

柴田さんに当選の秘訣を尋ねた。 を聞いた物見高い人々が集まって

「車を買う予定で、車庫を建て一ざいますが皆々様には御気嫌よく

秋とは名ばかりの猛暑の毎日でご

残暑御見舞申上げます。

車をどれにしようか、思案中

お過しの御事と存じます。

、動力機構が全部フロントにま

床面はフラットになり、足もと とめてあるので、室内が広く、

にゆとりがある。

車をなでたり、すかしたりして、

この大祭には諸行事が沢山あり

土曜日

釣 III 0

めにドン欲になる習性がある。め 特に秋は寒中の栄養を蓄積するた 場は神社前より上多礼橋の一、五

よいが、ネリ・キジは小鮒が寄る ので、鯉のみをねらうのならば、 餌はイモ・ネリ・キジ等何でも

めば適当に粘りが出る。これをサ 丸イモを弱火で三時間程度煮込

位になるとめっきり喰いが目立ち一十二号。ハリスは一、五号が一番 にかける。 TI号。ハリスは一、五号が一番「である。 針は袖、又は伊勢尼の十号から」尚、日中は不可、朝夕がチャンス

方式(前輪駆動方式)を採用した

皆様おなじみ の軽自動車で

FF方式については、一長一短

があるが、次のような利点が考え

られる。

り、FFの

たが、サニーやパブリカのように

完 成

な

玄海の味・生魚料理

以上他車と異る点を比較してみ

はげしかった

削輪の磨耗がで、シートがゆったりしている。

思かったり、 ドルの切れが の反面、ハン があるが、こ

では二、四〇〇城で一番長く後

またホイルベースはこのクラス

いのは非常によい。

部座席に後タイヤがかからないの

欠点もいくつ
|本格的な
量産体制を行っていない

かはある。しので、多少の疑惑も感じるが、従

み

一、高速安定性がきわめてよく、

ロードホールディングが優れて

三六〇として一このスパルが初めてである。この

ンジをしない 来モデルチェ えば、発売以

イコロ状(角砂糖位)に切って針

軍であるが、

やはり秋釣りの

王者

四塚連峯に白雲が流れ川面に冷

粁の間、県道沿いがよい。

イモが最適である。

鯉は、水温が十五度から二十度

(3)

釣りのシーズンに入る。 気がただよい初めると本格的な川 ・チヌ・セイゴ・ハゼと川魚の宝 釣川は、鮒・鯉・ウナギ・ボラ

昭和41年10月

た。七月一日の大雨で養魚場より で釣果は夏中サッパリ駄目であっ 今年は、異常な高温と炎天続き

近げ出した錦鯉や稚鯉が丸々と成

1 日

鯉

1

話

題

の

新車

を

みる

スパル一〇〇〇の巻

のは注目するところである。

ら製産されていたが、日本で本格 車では、この方式の自動車は昔か

的に量産されるようになったのは

があたると二号でも時々切れる事 かかりよいが、大物(尺五以上) があるので、特にリールさばきに

トを探りあてる事が大切である。 社前は相当に水深があるのでウキ 積の附近に集って来るのでポイン から餌付けをして置けばよい。神 に現われる特長があるので数日前 又、一定の場所、決まった時間 秋の鯉は大体深みとか木杭・石

下三米位にして底をフカした方が 効果がある。 従来の技術を生かして一、〇〇〇 あるが今回メーカーの富士重工が ーが競って、このクラスの自動車 ∞を発売した。 を作り出したが、その中でスパル

国内の各メーカ

一、駆動輪と操向輪が同じなので

長短は使用者の好みがあるので、

った興味ある自動車と云えよう 来のオーソドックスなタイプを破

九州統一価格は左記の通り。

五〇万六千円

高速コーナーリングがきわめて一とちらがよいか、結論を下すのは

無理であろう。

宗 像 宝 大 物 社 を 宝 物 訪 館 ね て

の 巻 (三)

ていた。この土を見ると鋳型の土 紐通し)の上側に型持の土が残っ 呈する鋳上りの良い鏡で、鈕孔(一面一面がそれぐ(に異なり、その 写真にみるこの鏡は、白緑色を 鏡の味を生かしている。 が、いずれもこの擬銘帯は、鏡一 どの鏡にも又帯は使用されている 何を意味するのか判明できない。

> る方格内に十二支 であるが、中国製

に合せて十二個、

の鏡にも鈕をめぐ

方格四神鏡の特徴 まで及んでいる。 らには、擬銘帯に V字形の中、さ

乳の数の多いのは

T字形 の両側に

古代に於いて円形に対する四角形 又中心の万格がかなり歪んでいる 仿製鏡の再転と考えれば頷ける。 識的にしたものかは判じられぬが 他の鏡とは反対に左折とした大陸 鏡の方式を用いている。これは意 T・L・Vの「L」字形は、

しかし、この鏡の に、鈕を中心とし 八個を配するよう

て集まっている。

の定め難さを物語っていよう。 く拡散し、擬略帯にまで及んでい ように方格外に多 るのは、中国の方式を破ったもの

この鏡の特色は、円座乳の数の一で、後述する三角縁神獣鏡のよう一神鏡巻日の鏡に次いで鏡 全体か 様の部分とのバランスが良くとれ さらにこの鏡の文帯は、中の文

の回、同 念演奏会… マチュアバ ◇宗像高校 町中央映劇 ンド結成記 1時、6時 4日午後 同校P

申上げます。とかく読書も思うに 下さいまして誠に有難く厚く御礼 編集による「宗像」を毎度御恵送 さて、この暑い中での御心こもる」の糧でございます。 いよいよの御発展を切にお祈り いたします。 心から御礼申し上げますと共に

福岡市

久保田君乃

スーパーデラックス五九万一千円 デラックス 五四万六十円

宗像郡玄海町神湊電話 神湊 56番

لح

働き続けた。みづから鍬をとり、 事業! しかも世の為、村の為だ と自らをはげましつつ営々として 然し男子が一生をかけて決した

も昔の姿をそのままにとどめてい

偉業とをたたえて追慕した。

尚、この塩田事業のあとは現在

多いことである。方格の内部四隅一に多数の乳を配する方式の影響と と、

丁字形の両側、

方格の外隅

| 考えられる。 らは柔和な感じを受ける。

はますく硬化し、形態も判明し かねる程に図案化されている。 中の文様の鳥文を挟む双虎の図 鏡径 二二、一センチ 〇、六センチ

(一頁よりつづく) 重量八五〇グラムである。 鈕高 一、五センチ 深 田 中野 節子

あへて乞へば樟脳質ひぬ だまされる思ひはすれど老人の汗 きつゝ庭に水まく 丘の上は水乏しくて朝まだき月仰 名 島 久保 房江

孤陋にて寒聞の境地に日を送るは ふくろふの夢おどろかす風吹け風 愚蒙に等しく鮹り受けなん 田 陵厳寺 真鍋 万三 島 白雲 山人

ぞすがし朝な呼ばまく つくし育ちのわれ油売る みすゞかる信濃の町のスタンドに 信 州名島次郎

塩田、立働く人々

しい塩田の様子である。打ち続く れ故郷、四国讃岐に於けるすばら の頭をかすめたものは、自分の生

いた村人も、この事業に協力する

すると今迄嘲笑をもって眺めて

◇宗像町ア

◆宗像町農協の自動車販売…軽四 | はあまりにも淋し 町村長ら関係者を招き、第一期改 輪車を市価より二万ー三万円安い 築工事完成の報告をかねて披露。 事業期成会が9日午後2時、郡内

TA建設 割ていどの頭金を入れて三年払い みは今月末まで農協購買部へ。二 価格であっせんしている。申し込

からない。それが

また自分の使命のような気がする

福をもたらすかわ にも、どれだけ幸 為にも、里人の為

って頂きます「宗像」は唯一の心まかせぬこの年になりましては送

布をかたむけて、人夫をやとい、 開墾を志した彼は貧しい自己の財

延享三年には塩浜の保正に任ぜら ち昇る煙、総て豪勢なものだった

工事に着手した。また村人には塩

従業者四百人。製塩量五萬石。今 れて製塩事業を監する事となり、

迄. もの淋しかった寒村、津屋崎

ねて入港し、近郷第一の繁昌する

所となった。

きながら、宿に帰った。かくして

立働く男女のかいくしい姿、た

そして今四十町歩の広い塩田に

彼は高鳴る胸に計画の数々を描

デュアルラジエーターを採用して いる。この装置はメインとサブの ラジエーターからなり、冷却ファ この他に冷却装置は、国産初の

なFF特性 損失がなく、ファンノイズが出な 以上のよう一ンがないので、ファンによる馬力

莊 田事業の計画を説きつつ、援助を

そのたびに彼はいくたびか、夕月 郷の情、切々として禁じ得ないこ 淡い砂浜に働き疲れた身を投げて られたり、馬鹿者扱いをされた。 て物笑いの種となり狂人とあざけ る筈がない。彼の熱意は、かえっ い村人が、彼の話に耳をかたむけ 恋質の 凝に 泣きくれた。 時には 懐 しかし塩田に全く経験を持たなの浦には、大きな商船が帆柱を連

塩売」として立働くようになった 遂げて眠るが如く此の世を去った 婦女子迄も、いわゆる「津屋崎の 塩を売り歩いて家計をうるおし、 近村の農家では、仕事の餘暇に 延亭四年五月、彼は功なり名を

宗像伝説 其の六十五

津屋崎塩田の開 大社元七翁物語 祖

の物語は、この塩田事業に一生を の製塩業で活気を呈していた。こ 七翁悲願の物語りである。 捧げた地方産業界の 恩人、大社元 その昔、四十町歩の塩田と五萬石 寛保元年、彼は商用のため、津 玄海の波美しい津屋崎の浜は、 砂を運び、汗みどろに働き、郷里 った。それでも彼は事業を止めな 果し、それは死にも近い苦しさだ の生活は極度に苦しく、その日の から妻子も迎えた。しかし、日々 生活にも事欠き、全財産は使い

非常に荒廃していた。その時、彼 半島のほとりをさまよった。北に 湾入した砂浜は数十カ町歩に及び 小高い山を連ねた半島、深く深く ある。或る日、彼は浦波静かな渡 屋崎にやって来た。淋しい漁村で した。 賜った。勇気百倍、その光栄に感 激して尚も事業に全身全霊をつく 耳に達し、黒田公から白銀若干を きた。この塩田開発事業が滞公の 遂に彼の努力が報いられる時が

ようになって来た。次第に協賛者 だ。茫々たる くうちに整然 った場所がみる 草原や、砂山だ 事は急速に進ん か多くなり、エ

数条の小溝が作 と区別されて美 しい塩田と化し

られた。 そこには満々

ろう。それは国の

に塩田を開いてや い情景であった。 この荒廃した砂浜 た姿とくらべると その生きくとし

そうだ!、ここ

て来るのではな たる海水が漲っ

詠

出光佐三一問一答シリーズ

2

俳句作品集 景 宗像大社献

東

欠まとい舌三寸の土橋行く 垣とんぼ枝を移りて子の年待つ 厚 狭 小野

えないものである、という自信が

は発芽しえないのである。移植し 共産主義は西洋道徳の沃土に培わ

るべきもので、わが国道徳の上に

人間尊重五十年』一一七~八ペ

欠けている。(『人間尊重五十年

韶書奉読式のときの訓示の中で、 それから昭和二十二年一月十五日

ころ言われています。

次に昭和十五年九月にはこういう

軒下の吊り玉葱に祖国あり

津屋崎

白石百合蔵

とせよ(紀元二千六百年を迎えて一あった。出光商会の人々も大いに

人間尊重をわれわれの金科玉条

て、国民は非常に心配した時代が

二十数年前、共産主義が流行し

如何橋流而水不流

先年、共産主義者続出の際、

一の関係について質問が出たことが

国を案じて、共産主義と、出光と

幼な名で呼び合う郷里のさるすべ かりがねの宙指す錨地に埋れ 津屋崎 **澁田しげを** 安部真佐子 真の発達をなす、仏教しかり、儒 ている。これらは日本の偉大なる一が中心となって、万事を解決する ります。「いかなる主義も必ず、 なり、日本の国体に包容せられて一あろうと、社会制度がどうであろ 成る部分真理を有し、美点をもっ る。当時私は店員に話したのであ一人間尊重であり、人間中心である 国体に咀嚼され、日本国の栄養と一ということは、政治機構がどうで 時社会に動揺を来たしたことがあしある。私は即座に答えた。出光は

て国家、社会のために働く。人間

一人一人が立派で、これが団結し

井浦 浜津 鴻浪 良介 はない。自己を信じて迷うべから で、実力ある国民の要らないはず 国民として修養しておけばよいの 国家の発達、国威伸張の資料とす それには個人として切磋琢磨、 るだけの準備をしておけばよい。 来の何ものをも咀嚼・摂取して、 像

炎天に誰れか投げだすリンゴの芯 教しかり、芸術文化しかりであるれることである。すべてを超越し

われわれは国民の一員として、外

炎天来し花輪の裏に人たまる

勝田 光

伊

配憶の海へ恋の断辺泳がせ夏

神宮司庁教学司 • 神宮皇学館教授 勢の式年遷宮祭

Œ

浩

迫りくる侵略の前に抗戦するか、 近隣の強国におびえた国内では、

道についで、本年は、地元奉曳団 み、御樋代木の木曽路からのご搬 のための造替準備が既に着々と進 により「お木曳」行事が盛大に行 宮式年御遷宮の大儀が行われ、そ 眠 n

的な縦のつながりなど無視する暴 みで、現時点にある自我の存在を 式年遷宮の儀について、全く無関 論風潮などにかんがみ、その本義 心か、又は、誤った物質的解釈の 屡々ドイツ、スエーデン、ロシア 於ても独立を保つこと極めて難く

恩給の暮し秋葱こきざみに

宗

来る昭和四十八年秋は、伊勢神

とに慶賀すべきことである。 巻間

等の支配下に置かれてきた。 その三国のうちのエストニアに 民族の言葉と民族の歴史と民族の れ民族は、忘れず三つの宝を抱い て眠らねばならぬ。三つの宝とは しかし、眠るにあたってわれわ

に触れて考えて見たい。

て、国内に非常な社会的不安と動 大正十年ごろ、共産主義が蔓延し一にかよいものがあるはずだと思っ

ず」と説いたのであります。(『|にわれわれの不倶戴天の敵である のよいところも、資本主義の特長 日本の歴史である。われわれはし 收すればよい。この咀嚼こそは、 からこれ以外には、人間が中心と っかりさえしていれば、共産主義 なって共産主義のよいとこをろ吸

のとき、頭から排斥しなくてよか

ったと思うね。

ぼくは大阪の金持のあり方に反

方

し反面にそれらの欠点、短所を排

る。諸君はこの根本を見きわめてある。(「人間尊重五十年」三四 ことが悪い時代など、永久にあり 揮しうる。国家社会の平和と幸福 現代の世相に少しも迷うことはな一九~五〇ページ) うべからざることである。人間中を招来しつるのである。しっかり 心が国家、社会の機構の根幹であし目信力をもて、と言ったことが ておる。人間がしっかりしている 除して、真の人間中心の真相を発 い。あわてることはない。国体を一他にまだありますが、そこでお聞

うと、いかなる場合でも、喜こば

も社会主義の長所も、自然に吸収 ことは、当時、政府をはじめ、一 わめて対照的であると思われます 不俱戴天の仇である」と言って、 る確固とした自信、信念の根拠に 般国民が共産主義に対して、非常 態度をとっておられません。この れた当時の状況とか、それに対す な。いいところは採れ。」と言わ 店主が「共産主義にびくびくする に恐れ、憎んでいた態度とは、き 共産主義を頭から排斥するような 国体、皇室を否定する共産主義は ついてまずお話しください。 しかし日本人の生命よりも大事な だから、それを採ればよろしい。 義にも必ずよいところがあるはず 美点をもっておるものだ。共産主 いかなる主義も部分的には真理としな」と言ってやってきたことが、

経験をぼくはもっているので、共 単なスピーチで、生産者から、消 廉吉先生が、講義ではなくて、簡 ただぼくは神戸高商時代に、池内 を研究して言ったんじゃないんだ れと言ったのは、なにも共産主義 義にもよいところがあるから、採 かった。だからその当時、共産主 についてはくわしいことは知らな クスの本もなかったし、共産主義 出光 ぼくの学生時代にはマル らば、どうなったかわからんよ。 いかと思う。ぼくは福岡県の宗像 立ちと比べて、相当違うんじゃな を簡単に話すが、マルクスの生い たが、はくが普通に育っていたな ので、共産主義者にはならなかっ 本国民としての誇りをもっていた そこで、まず、ぼくの生い立ち

けで、先生の教えをとり上げ、実れは神徳のお蔭だということを子 行に移しているだろう。そういう供心に聞かされながら、ぼくたち れたのを聞いて、これだというわ
名校長を出すので有名だった。こ 費者へという商人の社会性を話さしもった土地で、昔から、小学校の そこは非常に酵風美俗の地方風を れる格の高い神様が祭られておる 宗像神社という国民の祖神と仰が という所に生まれたが、そこには

は育った。 つから

のときこの三つの宝物さへしっか こけれど御上の次の如き御宸念の かその勢は衰えるときがくる。そ 民族の宝であるということを、畏 和二十年七月三十一日の条をみ 中に拝する。木戸内府の日記、昭 よい 然かも我々は、伊勢神宮が日本

「眠れ眠れ」という歌をうたいな こ伺候ス大要左ノ如キ御話アリタ 考へテ居タガ、伊勢ト熱田ノ神器 コトハ、重大ナコトト思ヒ、種々 ハ結局自分ノ身近ニ御移シテ、御 御召ニョリ午後一時二十分御前 先日内大臣ノ話タ伊勢大神宮ノ (別紙)

であり、それを日本について言え 人心ニ与フル影響モ考へ余程慎重 而シコレヲ何時御移シスルカハ (774)

揺を来たしたときに、店主は、「一そしてばくが「黄金の奴隷になる 偶然にも共産主義のよいところと て、頭から排斥しなかったわけだ 一致していたということだ。 だから今から思えば、ほくはあ 宗像藪庵先生百話

し頃

太郎

坊

自身も消息を絶ってしまった。

るのは先生方を前にして笑われる一一九年十一月に、原因不明の火災一わたしの喰べる菓子は何んでも喰

もあるので、猟奇を好む方は、協

力してほしい。シンプソン博士が

ができた。またこのほかに、来いうまそうに喰っていたのには驚い 発達が非常によく、歌を唄うこと一せず、生大根を干切にしたのを、 興味深いチンパンジーを見せてくしていると、そこらにいる兵が喰い うことであった。ロンドン大学の れた。このチンパンシーは知能の 研究所を訪れたとき、博士は実に シーマー教授がその著書の中へ一が二、三人いた。この家に前の人 との人工受精が成功しないとい 男と、ゴリラまたはチンパンシー は、ピグミー族(これは小人)の アフリカで秘かに抱いていた野望 九一三年にわたしがシンプソン 散らかした干魚の骨には見向きも 匹いた。わたしは猫好きなので見 が飼っていたのか、大きな猫が一 家が二軒あって、中継のための兵

アという地点がある。営林署の空

ジャングルの道路行程に、ムロ そ だ 5

を、二十ぐらい発言できるゴリラーに、味もつけてない生大根を喰っしるだろうが、わたしは何か、日本 て、自分の方からそっと逃げて行 の政治のまずい面にあった気がし よいのだと、屁理窟をいう人もい

|に子ができるかどうかを問題にす|まいか。しかしこの研究所は一九|がって一緒に育って来た三毛猫が り受精に成功していたのではある。ほかにはない。私が子供の頃可愛 のいることも博士が教えてくれた一ているとは全く、海より二百粁も とか止まれとかいった簡単な言葉 >と書いている。とうもこっそ 離れた所に育った習慣というより

した温かい雰囲気に恵まれて、日 生時代と、いずれも人間性を尊重 ら育った地方・家庭、それから学 いよ。ただ、ほくの場合は幼少か 産主義者になっていたかもしれな あるいは共産主義に共鳴して、共 読んで、マルクスを知っていたら くが学生時代に共産主義の書物を 対して出発したのだから、もしぼ

ん び N 棒 半 生 0 記

完 市

> ました。)私はサラリーは自宅に ム組も私の組に勝事出来ずに終り

をあてにせぬ恵れた時代でした。

界、命泉とササロンを常に服用致

(私の健康法)病気の無い世

して居ります。

家が商売のおかげで、サラリー

れた事が嬉しいです。しかし、お 資金が入れば保証人も何も入らぬ 又家主の渡辺さんが、

私に何回も

銀行利子で良いと何回となく申さ

かげで借用せずに済みました。

| 円に値下げして下さいました。 其 | エ、化学、物理、熱処理、表面硬化 食堂すし部と、二階アパート十四 られません。家業の方は楽器店、 の思いやりや、人柄の良さが忘れ 二年目は二七〇 | 位でしたが、本科の冶金、工鉄加 扇風機二台を下一に入り、食堂のガチャガチャ、仕 家主さんも大 | レコードは流行の東京音頭や上海 | 芦屋基地や、白島基地の兵隊さん

の分数も判らん魚屋小僧出身が、 学する事に成りました。何分明治学、物理、工鉄加工、熱処理等、 の命に依り、製鉄所の高等部に入 三十五年頃尋常四年制度高一中退 当時の小倉工業程度を身につける 私も日鉄の工員でしたが、上司 中も、和田は家で多数副業をして 強中であります。又、日鉄の在職 今の私に仕事面で用途の必要の時 が来ました。今でも忘れんよう勉 います。おかげで学んだ冶金、化 一倍、心配も苦労もあり、努力も一渡して、はげまして、本日只今限 居るからだめと云われぬように人一て、急いで用意の銭別袋を本人に 自分乍ら良くここ迄来たかと思 又嬉しい想い出です。

御愛読いただいている「宗像四

一旦出社すれば変った人格者で一話も致しますと、はげましました 又、私不在の時、出社中は店員に り残金は棒引です。御家族のお世 たします。 縁りのある「許斐一族」を連載い

必ずや、読者各位の御期待に応え た許斐一族の勇猛果敢な物語りは 下には名だたる豪族が揃い、 も宗像一円を東奔西走して守護し 時は戦国時代、宗像大宮司の幕 中で

だけのこと。唯、次のような記事 | で消失し、その後シンプソン博士 | べていたのを覚えている。 だ。この皮をむき終わると塩をふ そっとうしろから見てみると胡瓜 にむいているので、なんだろうと あるが、ブランケジャランの俘引 っと思った。今度は人間のことで めた。栄養からいったらその方が りかけて丸のままばりばり喰い始 た蜜柑の皮を喰べていたのでほー 監視兵の朝鮮人がなにか大切そう いた白犬は、バン助がむいてくれ のだと思うが、メダンの慰安所に バナナは甘いから喰べる犬は多い バナナを好んで喰べる犬がいた。 広東省の黄浦という所の分院に

て、あれがオランウータンだと思 の間でも子が生まれるが、それは いっている。類人猿と人間との間 小人で、大きくならないと士民は 貌も全く違っている。人間の女と われたら大間違である。体格も顔 動物園のオランウータンを見られ オラン・ウータン 南 華やかなり

た。猫は魚が大好物である筈なの

7

田 弥

室の経営も順調に行きました。 私が話さぬのに | 日暮迄勉強して数学英語は三十点 | 日、すべてが灰になりました。 さいました。又一方なく前の八幡様の片隅で、夕方一な事は昭和二十年八月八日のあの 変お気に召して一の花売娘、アアソレナノニ等が耳一に、慰安レコードも送りました。 等はまあまあ四十五才の学生とし ては、ドオヤラ卒業が出来ました 努力を買われてほめられ それでも生活は楽でしたが、残念 良かったのでしよう。再出発が出 しかし、それが今の私に取って

こ」を飲用しています。

体は常に亀の子たわしでこすり

人間は恩を忘れぬ事、これで

約四十分歩きます。又、常に「く

し五時に起き、前の小高い山道を

毎日床につくのが九時、朝四時

のお方が出征なされて、店の前を は蓄音器の大流行時代でした(昭 楽隊で勇ましく行進される姿を見 売出して居りました。内十五名位 日鉄工員の方に多量五カ月払いで ヤ、ポータブル三十五円でした。 和十三年頃)ピクター、コロンピ 物に生れ変りました。 来て、気力で体の調子も良く、何 物もおそれぬ物事を苦にせぬ大着 思い出の多い事、当時の楽器店 血行を良くし、主食は米一、麦 生を送りたいものです。

編 輯 部 ょ 9

ます。 月号をもって休載させていただき 郎氏貞」は作者の都合により、今 来月号からは、宗像四郎氏真に

眠 n

われる段取りになったのは、まこャがそれで、第二次大戦に際して たっている。 トニヤ、ラトヴィア、リトワニ

これらの小国は、周囲を強大なければならぬ。われわれ民族はし

無法にソ連に併合されて今日にいてる相手ではない。無念ではある が、しばらく外敵に身をゆだねな

国家に囲まれているため、過去にはらく眠るのだ。

三国と呼ばれる国々がある。エスた後、彼は次のような採決をくだ ヨーロッパの東北隅に、バルト の話をじっくり聞き、静かに考え の採択をもとめることとなった。 降伏するかで国論は二分する。つ いに、村の長老の意見を聞いてそ 白髪の老人が舞台に現れ、人々 「残念ながら、これは戦って勝 がら舞台が沈んでゆく、という筋 と教える。そこで大衆は、この長 ることが出来るのだ」 である。 老の採決に服し、一同立ち上って

表現で言えば「国体」ということ ヲ要スルト思フ。 の歴史と、民族の文化これを別な 暗示するところの意味はきわめて「守リスルガー番ヨイト思フ。 深重である。民族の言葉と、民族 オペラ「眠れ眠れ」が、含蓄し 伊勢神宮は民族の至宝 産主義も主義である以上、必ずな

一否定するかぎり、共産主義は絶対一きしたいことは、四十五、六年前

ある。そのあらましは欠のようでオペラ「眠れ、眠れ」というのが

文化である。

われは、再び立派に独立を恢復す りと胸に抱きとめてをれば、われ いかに強大な外敵と雖も、いつ よう。

しい学問でした。 よう、勉強させられました。きび 始めから数学は一次方式、二元

の事は忘れて、一生懸命やらねば 理もあり、一旦会社に出れば、内 の仕入れや、アバート十四室の管 れもあり、大食堂の経営しすし部 も出ぬとは私の事でした。 三角迄で詰め込まれ、実に手も足 会社から帰れば、楽器店の仕入 次と、二カ年間一週四時間位で

式忘れて、部下を指導せねばなり。申付て銭別袋を用意して、残金の

なければなりません。家の事は一

しました。

ば、率直に皇室と神宮と約言して

強はとてもやれません。楽器店の

ならず、毎日毎日が追われる身で一食を出して配給の石ケン、菓子、

学校の試験勉強もあり、自宅で勉|果物等、代金立替無料で皆を喜こ|事がありますが、良くして置けば | ばしました。(作業成績は甲組も | やっぱり私に良い事があります。 ら、ヤミ米を買い、夜勤の時は夜 に数十人の部下が良くついて来て

ぎせいにして、わるい事と知り乍 主食配給時代、勝抜くまでは身を ません。作業成績は上昇し、当時

社致しました。

又一番喜しい事は、つまらぬ私

棒引も強調させ、私は安心して出

呉れた事で、 今でも時々再会する るものと存じます。

弓続き福田長庵画伯が担当します 作者は新進の葦山半可氏、挿絵は